

慶應義塾に関連した出版物や教職員の最新著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

## 時空を超えた プラトンの対話

『プラトンの哲学 対話篇をよむ』

納富信留 (のうとみのぶる)  
岩波新書 / 864円 (2015年7月)



プラトンの著作の多くは、師ソクラテスとの対話形式で書かれている。本書はその対話篇を著わしたプラトンに「プラトンさん、あなたはなぜ……」というふうに着者が語りかける、新・対話篇とでもいべき形式で進行する。

7つの本章では、『ソクラテスの弁明』『饗宴』『ポリテイア』『ソフィスト』などの代表作を読み考えながら、プラトンの問いと対峙する。プラトンに語りかける著者の時空を超えた対話を、背後で耳を澄ませて聞くように読み進むうちに、プラトン哲学の本質に触れ、現代に生きる者にとっての哲学の大切さを改めて認識させられる。

## 教職員執筆の最新刊

●中室牧子 (総合政策学部准教授) 著

『学力』の経済学』デイスカヴァー・トゥエンティワン / 1728円 (2015年6月)

●坪田一男 (医学部教授) 著

『理系のための研究ルールガイド 上手に付き合え、戦略的に使いこなす』講談社 / 929円 (2015年6月)

●渡辺靖 (環境情報学部教授) 著

『アメリカのジレンマ―実験国家はどこへゆくのか』NHK出版新書 / 842円 (2015年7月)

●福田和也 (環境情報学部教授) 著

『悪と徳と 岸信介と未完の日本』扶桑社文庫 / 972円 (2015年8月)

●横山千晶 (法学部教授) 編著

『深読み名作文学 O・ヘンリー「最後の一夜」』慶應義塾大学出版会 / 2592円 (2015年8月)

●鈴木正崇 (名誉教授) 編

『アジアの文化遺産 過去・現在・未来』慶應義塾大学出版会 / 2160円 (2015年8月)

## 慶應義塾この一冊

『慶應義塾幼稚舎の理科教育』

―直接経験と採集理科の100年―  
慶應義塾幼稚舎理科編  
慶應義塾大学出版会 / 2160円  
(2013年5月)



1911年に日本の初等学校としては初めての理科実験室が幼稚舎に作られて100年となったことを契機に、刊行された。

第1章では、幼稚舎創立以来の理科教育の歴史を振り返り、高梨賢英、馬場勝良らの功績に注目。第2章は「直接経験重視」「採集理科」の視点で、理科カリキュラムの特徴を具体的に記し、シーズンオフのプールに生息するヤゴを観察した「ヤゴ救出作戦」の広がりも伝える。第3章は、標本室の概念を超えて、収集、展示、データベース化など充実した内容の「サイエンスミュージアム」を軸に、新しい取り組みを紹介する。